

松江で「出雲から陽が昇る」シンポ

女性主体の平和社会を発信

小松電機産業株式会社（松江市乃木福富町）主催による、平和社会の実現に向けたシンポジウム「出雲から陽が昇る」が23日、くにびきメッセであった。女性初のノーベル平和賞受賞者であるベルタ・フォン・ズットナー（1843-1914年）の像を制作したイングリッド・ロレマさんら、女性を中心とした講演会やパネルディスカッションが行われた。

イングリッド・ロレマさんから講演



平和と芸術の関係について講演するロレマさん＝23日、くにびきメッセ国際会議場

小松昭夫社長はあいさつで「今人類は滅亡に向かうか、新たな発展に向かうかの分岐点に立っている。島根、松江は人類の歴史の新しい第一歩を踏み出すことのできる場所であると確信している」と述べた。

ロレマさんや作家の村尾靖子さん、ウィーンで観光ガイドをしているイップ常子さん、日本文化を国内外に発信する株式会社ことほぎ社長の白駒妃登美さんら、さまざまな分野で活躍する女性が講演。浜田和幸参議院

議員、堀内好浩県立大名誉教授、アメリカの自己啓発訓練法と日本の哲学、禅を融合させた「BE訓練」の提唱者、行徳哲男さんら3人の男性も、それぞれの立場から新たな社会への展望を語った。

ロレマさんは彫刻を中心とする芸術作品を制作しながら、戦争によって心にトラウマを抱えた子どもたちの支援を行うための基金団体「HOPE」を立ち上げ、活動している。ズットナーの像は3体制作しており、オランダ・ハーグの平和宮にある1号像以外は小松電機産業に依頼された。このほど完成した3号像がこの日、会場で披露された。

講演の中でロレマさんは、ズットナーの生涯や自身の芸術活動や平和活動に至った経緯を紹介。ズットナー像制作のエピソードなどを説明し、「ハーグで人々を鼓舞した彫刻が、松江でも人々を鼓舞します。芸術はメッセージを伝えるためのもの。平和はかっこいい、といつことを忘れないでください」と語った。

パネルディスカッションでは、浜田議員をコーディネーターに、行徳さん、堀内名誉教授、イップさん、白駒さん、小松社長、アフガン寺子屋プロジェクト代表の渡部通恵さんが登壇。これから女性を主体にどういった社会を作っていくのか、出雲からいかに平和への流れを発信していくかを話し合った。

小松社長はロレマさんについて「時代を動かす人」と評し、「これからは女性が時代を動かす。男性には女性が活躍できる場を作る役割がある」と話した。